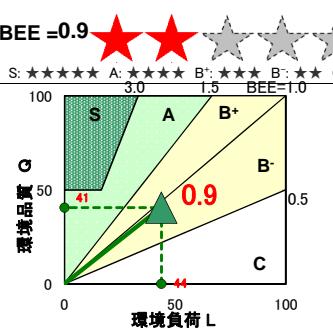
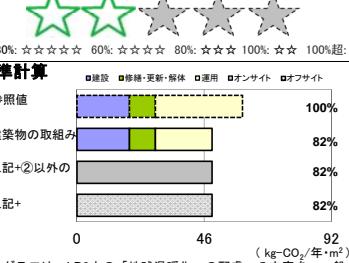
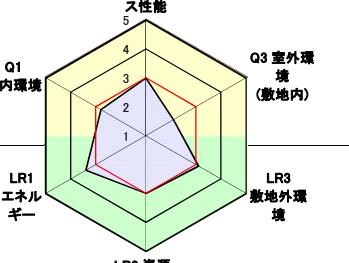


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)トヨコン安城営業所 新築工事	階数	地上3F
建設地	愛知県安城市尾崎町豊阿弥45番1	構造	S造
用途地域	指定なし、法第22条の指定区域	平均居住人員	12人
気候区分	6地域	年間使用時間	2,000時間/年
建物用途	事務所、工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年3月 予定	評価の実施日	2016年7月27日
敷地面積	2,501 m <sup>2</sup>	作成者	篠田 諭
建築面積	1,672 m <sup>2</sup>	確認日	2016年7月27日
延床面積	4,075 m <sup>2</sup>	確認者	篠田 諭

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)		2-2 ライフサイクルCO <sub>2</sub> 温暖化影響チャート		2-3 大項目の評価(レーティングチャート)	
BEE = 0.9 ★★☆☆☆		30%: ☆☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆ 100%超: ☆			
S: ★★★★★ A: ★★★★ B+: ★★★ C: ★	A: 3.0 B+: 1.5 C: 0.5 BEE=1.0	①参照値 100% ②建築物の取組み 82% ③上記+②以外の 82% ④上記+ 82%	Q1 室内環境 Q2 サービス性能 Q3 室外環境(敷地内) LR1 エネルギー LR2 資源・マテリアル LR3 敷地外環境		
		このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物（参照値）と比べたライフサイクルCO <sub>2</sub> 排出量の目安で示したものです			

2-4 中項目の評価(バーチャート)		Q のスコア = 2.6		LR のスコア = 3.2	
Q 環境品質	Q1 室内環境 Q2 サービス性能 Q3 室外環境(敷地内)	Q1のスコア= 2.8 Q2のスコア= 3.0 Q3のスコア= 2.1	Q のスコア = 2.6	LR1 エネルギー LR2 資源・マテリアル LR3 敷地外環境	LR1のスコア= 3.4 LR2のスコア= 3.0 LR3のスコア= 3.1
Q1 室内環境	音環境 温熱環境 光・視環境 空気質環境	2.5 3.1 2.8 2.8	Q2 サービス性能	機能性 耐用性 対応性	2.6 2.8 3.8
Q3 室外環境(敷地内)	生物環境 まちなみ 地域性・	1.0 3.0 2.0	Q3 室外環境(敷地内)	生物環境 まちなみ 地域性・	1.0 3.0 2.0
LR 環境負荷低減性	LR1 エネルギー LR2 資源・マテリアル LR3 敷地外環境	LR1のスコア= 3.4 LR2のスコア= 3.0 LR3のスコア= 3.1	LR のスコア = 3.2	LR1 エネルギー LR2 資源・マテリアル LR3 敷地外環境	LR1のスコア= 3.4 LR2のスコア= 3.0 LR3のスコア= 3.1
LR1 エネルギー	建物外皮の 自然エネ 設備システ 効率的	4.0 3.0 4.0 3.0	LR2 資源・マテリアル	水資源 非再生材料の 汚染物質	3.4 2.7 3.8
LR3 敷地外環境	地球温暖化 地域環境 周辺環境	3.7 2.9 2.7	LR のスコア = 3.2	LR3 敷地外環境	3.7 2.9 2.7

3 重点項目	
①地球温暖化への配慮	③敷地内の緑化
3.7	1.0
	
外構緑化指標(外構緑化面積/外構面積) 10.2 %	外構緑化指標(外構緑化面積/外構面積) 10.2 %
建物緑化指標(建物緑化面積/建築面積) 0.0 %	建物緑化指標(建物緑化面積/建築面積) 0.0 %
②資源の有効活用	④地域材の活用
2.9	1.0
	
<外装材に使用した地域性のある材料> なし	<外装材に使用した地域性のある材料> なし
<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>	<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>
Q-3-1 生物環境の保全と創出 Q-3-2 耐用性・信頼性、Q-3-3 対応性・更新性 Q-3-4 非再生性資源の使用量削減 Q-3-5 敷地内の緑化 Q-3-6 生物環境の保全と創出 Q-3-7 耐用性・信頼性、Q-3-8 対応性・更新性 Q-3-9 地域材の活用 Q-3-10 地域性のある素材による良好な景観形成	Q-3-1 生物環境の保全と創出 Q-3-2 耐用性・信頼性、Q-3-3 対応性・更新性 Q-3-4 非再生性資源の使用量削減 Q-3-5 敷地内の緑化 Q-3-6 生物環境の保全と創出 Q-3-7 耐用性・信頼性、Q-3-8 対応性・更新性 Q-3-9 地域材の活用 Q-3-10 地域性のある素材による良好な景観形成

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮

LR-3-1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用

Q-2-2 耐用性・信頼性、Q-3-3 対応性・更新性

LR-2-2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化

Q-3-1 生物環境の保全と創出

④地域材の活用

Q-3-2 まちなみ・景観の配慮

Q-3-3 地域性のある素材による良好な景観形成

外構緑化指標 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)}} \times 100$

建物緑化指標 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$



スコアシート 実施設計段階		独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	評価点			重み係数		評価点	重み係数	
<b>Q 建築物の環境品質</b>								
<b>Q1 室内環境</b>								
1 音環境								
1.1 騒音								
1.2 遮音								
1 開口部遮音性能	3.0	0.40						
2 界床遮音性能	1.8	0.40						
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)	1.0	0.60						
4 界床遮音性能(重量衝撃源)	3.0	0.40						
1.3 吸音	3.0	0.20						
2 溫熱環境								
2.1 室温制御	3.1	0.35						
1 室温	3.7	0.50						
2 外皮性能	5.0	0.38						
3 ゾーン別制御性	3.0	0.25						
2.2 湿度制御	3.0	0.38						
2.3 空調方式	2.0	0.20						
3.0	0.30							
3 光・視環境								
3.1 曜光利用	2.8	0.25						
1 曜光率	2.4	0.30						
2 方位別開口	2.0	0.60						
3 曜光利用設備	3.0	0.40						
3.2 グレア対策	3.0	0.30						
1 曜光制御	3.0	1.00						
3.3 照度	3.0	0.15						
3.4 照明制御	3.0	0.25						
4 空気質環境								
4.1 発生源対策	2.8	0.25						
1 化学汚染物質	3.0	0.50						
2 アスベスト対策	3.0	1.00						
4.2 換気	3.0	0.30						
1 換気量	3.0	0.33						
2 自然換気性能	3.0	0.33						
3 取り入れ外気への配慮	2.0	0.20						
4.3 運用管理	1.0	0.50						
2 CO <sub>2</sub> の監視	1.0	0.50						
2 喫煙の制御	3.0	0.50						
<b>Q2 サービス性能</b>								
<b>1 機能性</b>								
1.1 機能性・使いやすさ	2.6	0.40						
1 広さ・収納性	2.0	0.40						
2 高度情報通信設備対応	3.0	0.33						
3 ハリアフリー計画	2.0	0.33						
1.2 心理性・快適性	1.0	0.33						
1 広さ感・景観	3.0	0.30						
2 リフレッシュスペース	4.0	0.33						
3 内装計画	4.0	0.33						
1.3 維持管理	1.0	0.33						
1 維持管理に配慮した設計	3.0	0.30						
2 維持管理用機能の確保	3.0	0.50						
3 施設管理制度	3.0	0.50						
2 耐用性・信頼性								
2.1 耐震・免震	2.8	0.31						
1 耐震性	3.0	0.48						
2 免震・制振性能	3.0	0.80						
2.2 部品・部材の耐用年数	3.0	0.20						
1 軟体材料の耐用年数	2.7	0.33						
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	3.0	0.23						
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	2.0	0.23						
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	3.0	0.09						
5 空調・給排水設備の更新必要間隔	3.0	0.08						
6 主要設備機器の更新必要間隔	3.0	0.15						
2.4 信頼性	3.0	0.23						
1 空調・換気設備	2.6	0.19						
2 給排水・衛生設備	3.0	0.20						
3 電気設備	3.0	0.20						
4 機械・配管支持方法	1.0	0.20						
5 通信・情報設備	3.0	0.20						
3 対応性・更新性								
3.1 空間のゆとり	3.8	0.29						
1 階高のゆとり	3.6	0.31						
2 空間の形状・自由さ	4.0	0.60						
3.2 荷重のゆとり	3.0	0.40						
3.3 設備の更新性	5.0	0.31						
1 空調配管の更新性	3.0	0.38						
2 給排水管の更新性	3.0	0.17						
3 電気配線の更新性	3.0	0.17						
4 通信配線の更新性	3.0	0.11						
5 設備機器の更新性	3.0	0.11						
6 パックアップスペースの確保	3.0	0.22						
6 パックアップスペースの確保	3.0	0.22						

スコアシート		実施設計段階									
配慮項目		独自基準 重点項目		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分 評価点		住居・宿泊部分 評価点		全体	
Q3 室外環境(敷地内)						-	0.39	-	-	2.1	
1 生物環境の保全と創出	独自③					1.0	0.30	-	-	1.0	
2 まちなみ・景観への配慮	独自④					3.0	0.40	-	-	3.0	
3 地域性・アメニティへの配慮						2.0	0.30	-	-	2.0	
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	独自④					2.0	0.50	-	-		
3.2 敷地内温熱環境の向上						2.0	0.50	-	-		
LR 建築物の環境負荷低減性						-	-	-	-	3.2	
LR1 エネルギー						-	0.40	-	-	3.4	
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPIm=0.52					4.0	0.03	-	-	4.0	
2 自然エネルギー利用						3.0	0.27	-	-	3.0	
3 設備システムの高効率化						4.0	0.42	-	-	4.0	
集合住宅以外の評価(3a,3b)	BEIm=0.65					4.0	1.00	-	-		
集合住宅の評価(3c)						-	-	-	-		
4 効率的運用						3.0	0.28	-	-	3.0	
集合住宅以外の評価						3.0	1.00	-	-		
4.1 モニタリング						3.0	0.50	-	-		
4.2 運用管理体制						3.0	0.50	-	-		
集合住宅の評価						-	-	-	-		
4.1 モニタリング						-	-	-	-		
4.2 運用管理体制						-	-	-	-		
LR2 資源・マテリアル						-	0.30	-	-	3.0	
1 水資源保護						3.4	0.15	-	-	3.4	
1.1 節水						4.0	0.40	-	-		
1.2 雨水利用・雑排水等の利用						3.0	0.60	-	-		
1. 雨水利用システム導入の有無						3.0	0.67	-	-		
2 雜排水等利用システム導入の有無						3.0	0.33	-	-		
2 非再生性資源の使用量削減						2.7	0.63	-	-	2.7	
2.1 材料使用量の削減						-	-	-	-		
2.2 既存建築躯体等の継続使用	② 独自					2.0	0.07	-	-		
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用						3.0	0.25	-	-		
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用						3.0	0.21	-	-		
2.5 持続可能な森林から産出された木材						1.0	0.21	-	-		
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	独自					-	-	-	-		
3 汚染物質含有材料の使用回避						4.0	0.25	-	-		
3.1 有害物質を含まない材料の使用						3.8	0.22	-	-	3.8	
3.2 フロン・ハロンの回避						5.0	0.32	-	-		
1 消火剤						3.3	0.68	-	-		
2 発泡剤(断熱材等)						4.0	0.33	-	-		
3 冷媒						3.0	0.33	-	-		
3.0						3.0	0.33	-	-		
LR3 敷地外環境						-	0.30	-	-	3.1	
1 地球温暖化への配慮	①					3.7	0.33	-	-	3.7	
2 地域環境への配慮						2.9	0.33	-	-	2.9	
2.1 大気汚染防止						5.0	0.25	-	-		
2.2 温熱環境悪化の改善						2.0	0.50	-	-		
2.3 地域インフラへの負荷抑制						2.7	0.25	-	-		
1 雨水排水負荷低減	独自					3.0	0.25	-	-		
2 汚水処理負荷抑制						3.0	0.25	-	-		
3 交通負荷抑制	独自					4.0	0.25	-	-		
4 廃棄物処理負荷抑制						1.0	0.25	-	-		
3 周辺環境への配慮						2.7	0.33	-	-	2.7	
3.1 騒音・振動・悪臭の防止						3.0	0.40	-	-		
1 騒音	独自					3.0	1.00	-	-		
2 振動	独自					-	-	-	-		
3 悪臭						-	-	-	-		
3.2 風害・砂塵・日照阻害の抑制						3.0	0.40	-	-		
1 風害の抑制						3.0	0.70	-	-		
2 砂塵の抑制						1.0	-	-	-		
3 日照阻害の抑制						3.0	0.30	-	-		
3.3 光害の抑制						1.6	0.20	-	-		
1 屋外照明及び屋内照明のうら外に漏れる光への対策						1.0	0.70	-	-		
2 夕景の建物外壁による反射光(グレア)への対策						3.0	0.30	-	-		

**重点項目スコアシート**  
**(仮称)トヨコン安城営業所 新築工事**

実施設計段階

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2014年版+あいち版手引き  
 ■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2014(v.2.0)\_AICHI

重点項目(配慮項目)	評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>			<b>3.7</b>
LR3-1 地球温暖化への配慮	3.7	0.10	
<b>② 資源の有効活用</b>			<b>2.9</b>
Q2-2 耐震性・信頼性	2.8	0.09	
Q2-3 対応性・更新性	3.8	0.09	
LR2-2 非再生性資源の使用量削減	2.7	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>			<b>1.0</b>
Q3-1 生物環境の保全と創出	1.0	0.12	外構緑化:10.2%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>			<b>1.0</b>
Q3-2 4) 地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2) 地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化  
 重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 
$$\text{重点項目スコア} = \frac{\text{(評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{重みの総和}}$$

④地域材の活用  
 重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

## ■ 環境設計の配慮事項

■建物名称 (仮称)トヨコン安城営業所

計画上の配慮事項	
総合	国道1号線沿いに倉庫業を営む倉庫で内部に一部事務室を設けた建設計画。倉庫業法に準拠した内容とする。運搬車両による交通の支障のないような建物配置とした。
Q1 室内環境	一般的な事務所環境とする。
Q2 サービス性能	空間のゆとりについては、倉庫ということで高さにはゆとりを持たせるよう配慮している。1階は6.1m、2階は4.6m、3階は4.3mを確保
Q3 室外環境(敷地内)	建築許可により敷地面積の3%以上の緑地を確保(3.3%)
LR1 エネルギー	照明機器をLEDとする。給湯は電気温水器とする。
LR2 資源・マテリアル	節水型洋便器、自動洗浄小便器、自動水栓、F☆☆☆☆仕上材使用。
LR3 敷地外環境	従業員の駐車場設置あり
その他	